

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 7 (2025) 年 12 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 事業部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>受付時間 10:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日 毎月 1 日

診療情報管理士を目指す方々へ

末永 裕之

日本診療情報管理学会 名誉理事長

小牧市民病院 名誉院長

日本診療情報管理学会は 1975 年に始まり、今年で 50 周年を迎えました。日本診療録管理学会で始まった本会は、診療記録全般の保全と診療記録の質の担保が主たる仕事でしたが次第に担当する業務範囲が広まり、2009 年に日本診療情報管理学会に名称を変更しました。診療記録というモノの管理から診療情報全般をマネジメントする役割に代わり、担当する範囲は拡大してきています。

情報を分析して医療の質を改善するための提言や、経営に関わる情報の分析をして経営改善に結び付く提言ができる診療情報管理士も増え、病院の中で重宝されている診療情報管理士が育ってきています。

最近では診療情報だけではなく医療・健康情報に関するあらゆる分野に関わることも期待されてきており、担当する分野は広がって病院等の施設において活躍できる場が増えて診療情報管理士の重要性が高まっています。

診療情報管理士としてそれぞれの施設で認知されるためには、まず目にする医療健康情報が正確であるかどうかを判断できる力をつけることが必要です。常日頃から目にする様々な情報についても、情報源はどこかと気にかけるようにすることも訓練になると思います。

2027 年から ICD-11 が始まりますが、それらにも少しずつ慣れていくようにしなければなりません。まだ職場の先輩も十分には理解されていない状況と思われるので、先輩たちとともに日本診療情報管理学会から発信している情報等で勉強し、また学会の行っている研修会にも参加するようにしてください。

情報の専門家を目指す方に必要なことは、①利用する情報の正確性を判断できるようにする、②情報を検証した上で問題点を指摘できるようにする、③どうすれば情報が共有されるようになるかを考える、の 3 点が重要だと思います。

診療情報管理士の認定を受けても現場で学ばなければならないことは沢山あります。日々進化している診療情報に関する領域で、分からないことは身近な先輩、仲間に相談し、日本診療情報管理学会等の学術大会、研修会にも参加して新しい知識を身に着けるようにしてください。

診療情報管理士には事務部門と医療部門をつなぐ役割も期待されています。AI の進歩により診療情報管理士の役割が今後変わっていくことも考えられますが、日本診療情報管理学会からの対応に関しての発信にも注意してください。

皆様のご活躍を期待しています。